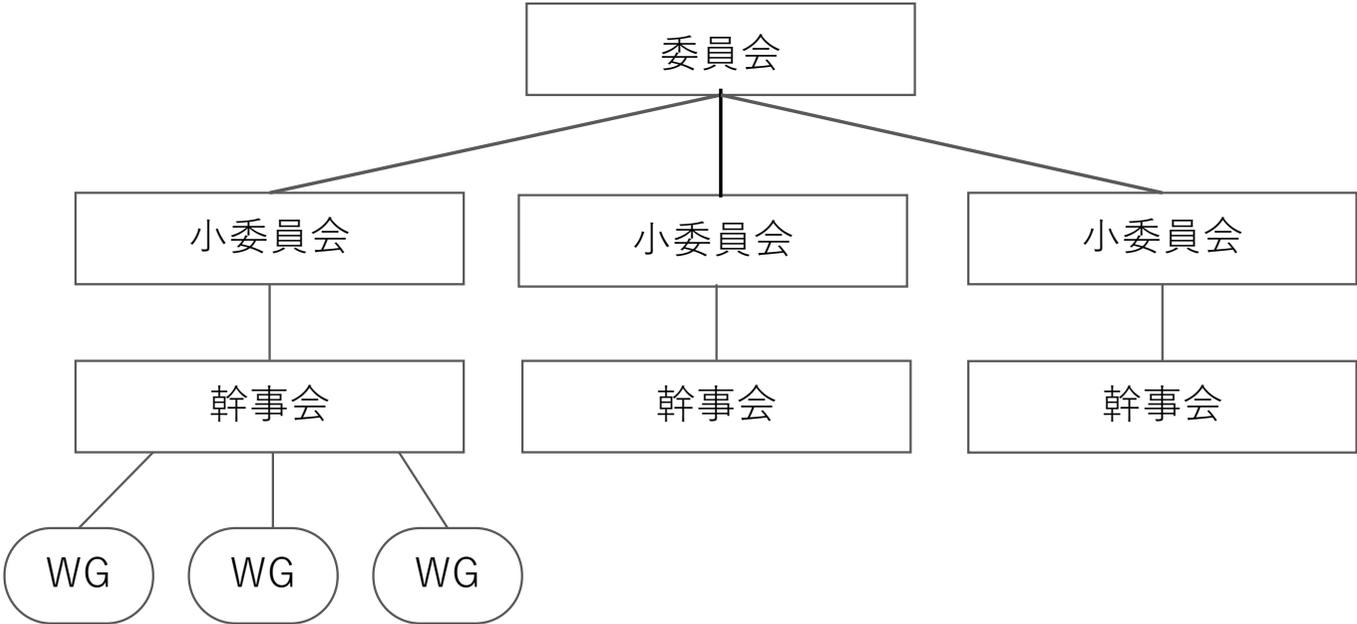
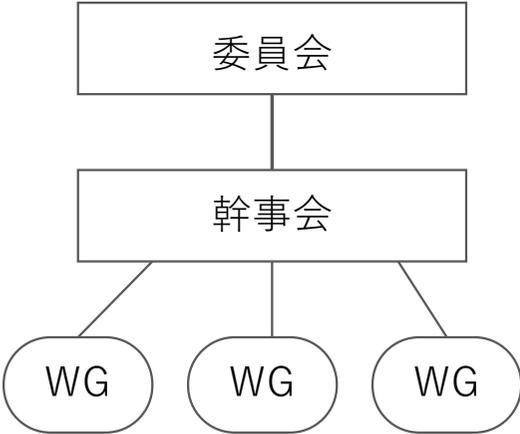
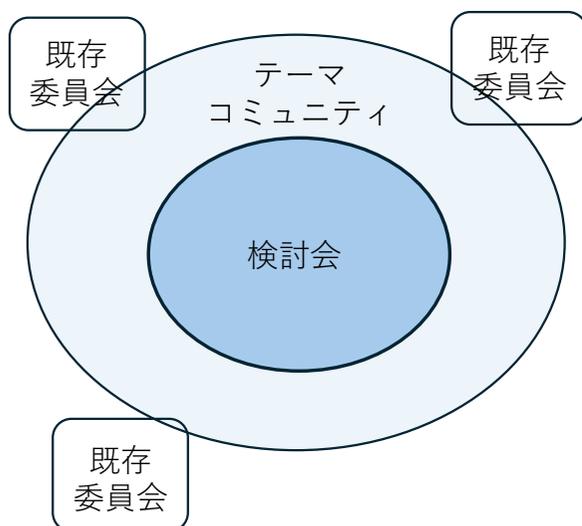


資料3 検討会の体制イメージ

一般的な体制

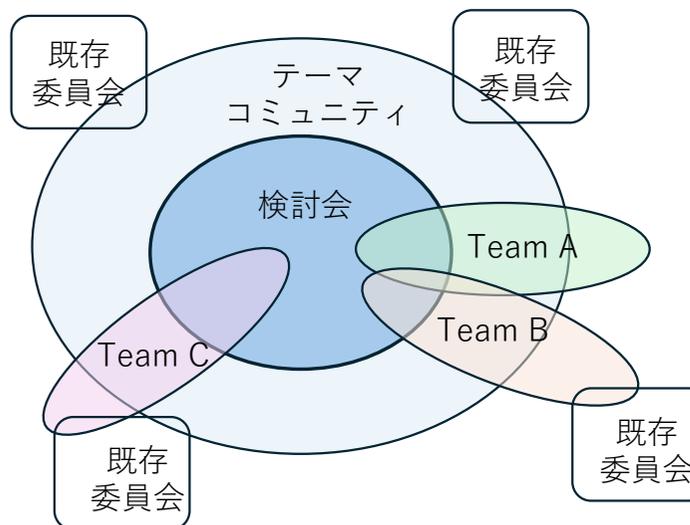


STEP1: イシューに関連する多岐にわたる論点、課題、アプローチの可視化



既存委員会や理事へのアンケート結果も参考にし、検討会メンバーが場をオーガナイズして、テーマに関わる人々が随時参加して情報と意見の交換を行う。

STEP2: 優先して取り組む事項の実践活動の体制の立ち上げ

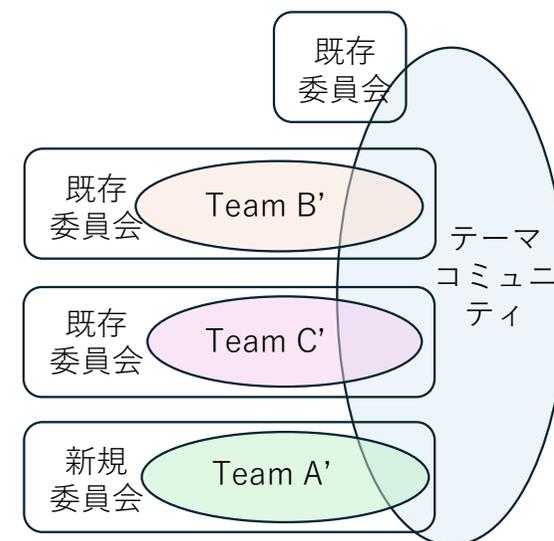


優先して取り組む事項についてその実践をどのように進めるかを検討するチームを立ち上げ、既存委員会とも協力しながら、動き始める。

想定されるのチームのトピック：

- ・大規模地中管路の設計・施工・維持管理？
- ・上下水道のインフラ自分ごと化？
- ・インフラ事故対応への体制？

STEP3: 実践チームを適切な組織のもとに位置付け



実践チームがそれぞれロードマップを描き、活動の目的、プロセスに目処がついたら、既存または新規の委員会等の組織のもとに位置付け、それぞれが独立して活動を進める。必要に応じて、step1,step2で交流したメンバーと意見交換、情報交換を行いながら進める。この体制に移行した時点で検討会は解散する？

インフラメンテナンス&マネジメントのためのオール土木学会とりぐみ検討会

2025.5

2025.6?

2025.12?